



NEWS RELEASE

INFRONEER
Holdings Inc.

2023年9月22日

関係各位

インフロニア・ホールディングス

三井住友信託銀行とポジティブ・インパクト・ファイナンスの融資契約を締結 ～当社の事業活動によるSDGs達成への貢献を評価～

インフロニア・ホールディングス株式会社(東京都千代田区、代表執行役社長：岐部一誠、以下「当社」)は、三井住友信託銀行(東京都千代田区、取締役社長：大山一也)と国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)(※1)が策定した「ポジティブ・インパクト金融原則」(※2)及び「資金使途を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク」に則した「ポジティブ・インパクト評価(資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ)」(以下「本評価」)を実施いたしました。また、本評価に基づく「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ)」の融資契約(以下、本契約)を締結しました。

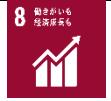
ポジティブ・インパクト・ファイナンスは、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響とネガティブな影響)を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資です。企業の活動、製品、サービスによるSDGs達成への貢献度合いを評価指標として活用し、開示情報に基づきモニタリングを行い、エンゲージメントを通して企業の活動を支援していくことが最大の特徴です。

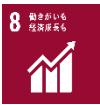
本契約締結にあたり、当社のマテリアリティ(重要課題)から重点取組項目と評価指標を後述のとおり設定し、今後毎年、三井住友信託銀行から目標の達成状況を評価いただきます。

本評価は、株式会社日本格付研究所(東京都中央区、代表取締役社長：高木祥吉)から評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について、第三者意見(※3)を取得しています。

当社は、「総合インフラサービス企業」として、「良質なインフラサービスの提供とその社会的価値の向上を図る」事業を通じ、インフラサービスを取り巻く社会課題解決に取り組み、サステナビリティの実現と持続的な企業価値向上を目指してまいります。

SDGs達成にインパクトを与えると評価された当社の主な活動

テーマ	内容	目標と指標(KPI)	SDGs
環境配慮社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの削減 ・循環経済実現への貢献 ・生物多様性の保全 	<p>(a)再生可能エネルギー事業の拡大</p> <p>目標</p> <p>2030 年度までに開発した累計総発電量 100 万 MWh／年</p> <p>指標(KPI)</p> <p>開発した再エネ発電所の累計総発電量(MWh／年)</p> <p>(b)環境負荷低減に繋がる設備・商品の設計・施工・製造の推進</p> <p>目標</p> <p>ア. 2030 年度までの木造・木質化建築における炭素固定量 2,000t-CO2/年</p> <p>イ. 2030 年度までに設計施工非住宅案件の ZEB 採用率 40%</p> <p>指標(KPI)</p> <p>ア. 木造・木質化建築における炭素固定量 イ. 設計施工非住宅案件の ZEB 採用率</p> <p>(c)バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量の削減</p> <p>目標</p> <p>ア. グループ全体の温室効果ガス排出量について、スコープ 1,2 排出量を 2030 年度までに 40%削減、2050 年度までに排出実質ゼロを実現。スコープ 3 排出量について、2030 年度までに 40%削減(2018 年度比)</p> <p>イ. 再生可能エネルギー(電力)利用率を、2030 年度に RE60、2050 年度までに RE100 を実現</p> <p>指標(KPI)</p> <p>ア. CO2 排出削減量(スコープ 1,2) ・CO2 排出削減量(スコープ 3(カテゴリ 1 及びカテゴリ 11)) イ. 再生可能エネルギー(電力)利用率</p> <p>(d)廃棄物ゼロに向けた取り組みと再生材の利用率向上</p> <p>目標</p> <p>ア. 新設工事における廃棄物の削減(前年度比改善／総量ベース)</p> <p>イ. 新設工事における再生材利用率向上(前年度比改善／総量ベース)</p> <p>指標(KPI)</p> <p>ア. 新設工事における廃棄物排出量 イ. 新設工事における再生材利用率</p> <p>(e)生物多様性の保全</p> <p>目標</p> <p>生物多様性と生態系サービスの維持に資する「地球への配当」の取組金額増(前年度比)</p> <p>指標(KPI)</p> <p>生物多様性と生態系サービスの維持に資する「地球への配当」の金額</p>	    
安全安心とより快適な社会の創造	安全安心・快適なインフラの提供	<p>目標</p> <p>顧客からの高評価獲得(具体的に以下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築:顧客満足度調査:100 点中 80 点以上 ・土木:工事成績評点:100 点中 80 点以上 ・舗装:顧客満足度調査:100 点中 80 点以上 ・機械:顧客満足度調査:5 段階中 4 以上 <p>指標(KPI)</p> <p>顧客評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築:顧客満足度調査 ・土木:工事成績評点 ・舗装:顧客満足度調査 ・機械:顧客満足度調査 	 
価値創造人材と相互尊重	人材開発の推進	<p>(a)グループ人材戦略の推進教育</p> <p>目標</p> <p>人事部主催研修の参加率 100%</p> <p>指標(KPI)</p>	

		<p>人事部主催研修の参加率</p> <p>(b)労働者の就労環境・条件の改善／安全衛生の推進目標</p> <p>ア. 2030 年度まで継続して、度数率 0.6 以下を維持(対象は前田建設) イ. 重大災害件数ゼロ</p> <p>指標(KPI)</p> <p>ア. 度数率(対象は前田建設) イ. 重大災害件数</p> <p>(c)人材の多様性の受入れと活躍の場の拡大目標</p> <p>女性社員雇用率の向上(前年度比増)</p> <p>指標(KPI)</p> <p>女性社員雇用率</p>	
バリューチェーンの強化	バリューチェーンの強化	<p>(a)協力会社の供給能力向上と担い手育成目標</p> <p>前田建設において 2023 年度に建設キャリアアップシステム現場登録率を 100%とする</p> <p>指標(KPI)</p> <p>前田建設における建設キャリアアップシステム 現場登録率(建設キャリアアップシステムに登録している現場数／全現場数)</p> <p>(b)建設現場の省力化、効率化、及びそれらに貢献する認定技術／商品の開発の推進目標</p> <p>ア. 2030 年度までに、前田建設における一人当たり完工高を 1.37 億円／人(土木)、1.53 億円／人(建築)とする。 イ. 「認定技術」の定義について 2024 年 9 月末までに策定する</p> <p>指標(KPI)</p> <p>ア. 前田建設における一人当たり完工高 イ. 「認定技術」の定義策定</p>	 

(※1)国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)

国連環境計画(UNEP)は、1972 年に「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG(環境・社会・企業統治)への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

(※2)ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FI が 2017 年1月に策定した、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた金融の枠組。企業が SDGs 達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くもの。

融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

(※3)ポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性についての第三者意見

株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

＜問い合わせ先＞
インフロニア・ホールディングス株式会社
グループマネジメント部
Email : infroneer-release@infroneer.com